

令和元年度愛知医療学院短期大学卒業式 学長式辞

皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

本日の卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響で、皆さんにとっては、非常に不本意な卒業式の形になったかと思います。しかし、卒業式の形がどんなであれ、皆さんのご両親や先生方、さらには在学生の皆さんが、皆さんの卒業を心から喜び、祝福をし、皆さんの将来に大きな期待を抱いていることには、全く変わりはありません。

皆さんは、まもなく医療従事者の一員として社会で働く立場になる人たちですから、このような形の卒業式になったことを、十分理解していただいていると思いますし、今後、さらに厳しい対応を求められる状況になってくるかもしれません。その時には、皆さんが率先して模範的な行動をとっていただくことを期待しています。

さて、皆さんは非常に短い年月の間に、講義や実習を通して OT・PT に必要な知識や技術を身につけられたばかりでなく、病院実習、研究発表などに頑張ってくださいました。特に、最後の半年間は、国家試験全員合格を目指して、先生方と一緒にワンチームとなって頑張られました。在学中、本当に色々な課題を乗り越えられて来られた皆さんに敬意を表したいと思います。

皆さんはこれからいよいよ社会に出て、OT・PT としての専門職の道を歩まれることとなります。ほとんどの皆さんは医療施設に勤められ、医療チームの一員として責任ある仕事に就かれることとなります。

いま人生 100 年時代、リハビリを必要とする高齢者が益々増えること、また、チーム医療の一員として色々な領域でリハビリの人材が必要とされていることを考えると、社会は皆さんを大歓迎し、皆さんに大きな期待を寄せているのは間違いのない事実かと思えます。皆さんには、計り知れない可能性のある将来が待っていると言っても過言ではありません。

しかしその反面、今の医療の世界では、医療の高度化や細分化、また、患者さんの要求水準の高まりから、些細なミスもゆるされない完璧な医療を求められる、非常に厳しい現実が皆さんを待っているのも確かかと思えます。

さらには、これからの皆さんの長い人生の中には、今回の新型コロナウイルス感染症のように、いろいろな試練に直面することも多いかと思えます。今の皆さんの気持ちは、卒業の喜び、感謝、将来への希望に満ち溢れ、新型コロナウイルスなんかには決して負けない、強い信念があるものと確信をしています。これからどのような試練に直面しようとも、皆さんには今の気持ちを思い出して、その試練を乗り越えていただきたいと思えます。

最後になりましたが、皆さんには、ここ愛知医療学院短期大学の卒業生であることに誇りをもち、皆さんの同期の仲間、先生方との絆を大切に、将来の地域医療を担う貴重な人材になっていただきたいと思います。

皆さんが大きな夢を膨らませ、自信をもって社会に出られ、活躍されることを願って、私のお祝いの言葉としたいと思います。

本日は本当におめでとうございました。

2020年3月14日

学長 石川 清